

たじみん昼話 105

私たちは、身近なものほど見ているようで見ていない

多治見高校で代表する木と言えど何だろう。ききょうは銀杏だと思う。銀杏は、秋になると黄色くなり学校の風景を情緒豊かにしてくれる。が、その一方で強烈な臭いを放って我々の嗅覚を麻痺させ、他の秋の草花の情調豊かな匂いを消し去ってしまう等、わびさびの欠片もない強烈な存在感を示しているからだ。

しかし、これほど目立つ存在でありながら、多治見高校にある施設名は「桔梗が丘会館」であり「桔梗が丘ホール」だ。文化祭の名前も「桔梗祭」であり学校の校誌も「桔梗」など、まったく銀杏は見当たらない。そうこの状況にありながら、多治見高校のアイコンは桔梗なのだ。

桔梗とは何か

桔梗は、根が硬いという薬草としての漢名「桔梗」を音読みした「キチコウ」が変化した語が名前の由来と言われている。万葉集にも登場し、武家の美濃の山県氏、土岐氏、明智光秀等の家紋に使われ、絶滅危惧種ながら、秋の七草のひとつであるなど、日本人の心を代表する花のひとつだ。

ちなみに桔梗の学名は、「*Platycodon grandiflorus*」、和名は、おかとときと言われる。英語では「Balloon flower」または「Chinese bellflower」だ。

多治高生は、多治見高校ではあまり見かけない桔梗より、名前を使ってもらえないけど存在感が抜群で、毎日登下校時に見ている銀杏についてはよく知っているだろう。

多治高クイズ

問題だ。銀杏の葉っぱの葉脈【すじ】はどうなっているのだろう。右の絵に筋を書いてみよう。ちなみに、令和二年度卒業生の52人中、正しくかけた人は2名だ。

